

「珠数のおはなし」

大垣市・明秀寺 嵯峨崎厚水

仏様を拝む時、手にかけるものを珠数といいます。では、なぜかけるのでしょうか。ちょっと自分の手を見てみましょう。この手で美しい花の世話をします。子どもの頭をなでます。立派な仕事やお手伝いをします。でも、他人をたたいたり、殺人兵器をつくったりと、ひどいこともします。

今一度、手を洗い、手を合わせ、珠数をかけると、手は動かせなくなります。すると、今まで見えなかったものが見えてきます。気づかなかったことが気づくようになります。

手を動かしている時は、目は外（手のほう）ばかり見ていましたが、珠数をかけて手が動かなくなると、自分のしていることはこれでいいのかと、目が内側に向けてくるのです。

「あんなことを言ってみずかったなあ」、「あんなことをして失礼だったなあ」と自分を静かに振り返ることができます。

今度はその珠数を見てください。たくさんの小さな玉と大きな玉が一本の紐でしっかりと結ばれつながっています。

大きい玉は仏様を表わしています。

小さな玉は私たちみんなです。

一本の紐は一本の道（本願念仏の一道）です。

仏様は私たちみんなにこの一道を歩んでほしいと念願しておられるのが、珠数の形です。



手を合わせ、珠数をかけ、仏様を拝む時、私たちは仏様から願われ念じられて、この一本の道を歩いていくことになります。ですから、珠数を念珠とも申します。